



南 雲 正

JRとの連携、協力による 観光振興と町活性化を。

高速道ETC割引効果は5月連休以後あまり見えてこない。国内旅行実態調査では、バブル時の「みんなで車で遊びに行こう」という感覚は着実に薄れてきているという。2014年北陸新幹線開業に対応するためJRではガラ湯沢の再開発や越後湯沢駅の活性化が計画されているようである。今後はJRを利用する観光客の受け入れ体制の充実が必要である。

質問

町長は就任以来、知事との約束で、県が湯沢駅に新潟県の表玄関にふさわしいインフォメーションセンターをつくり湯沢駅の活性化を図るといって続けてきたが、いつの間にか隣市との広域観光案内所にすり変わっている。観光にとって最も重要なインフォメーション機能の低下が続く中、新潟県に頼るといつ実現不可能なことに

何時までも固執せず、JRが計画する湯沢駅の活性化計画に協力支援することで、アウトレット等駅構内での観光客の抱え込みなど、町の発展の阻害となるような計画には変更を求めるとも出来る。更に「びゅう」と一緒に湯沢観光案内組織やその中に新潟県も取り込み不足するスキー場の案内看板等も整備し、JRと体になったインフォメーション機能を充実させることが町の観光振興策としては得策であると考え、町長の考えを伺う。

町長答弁

広域観光情報センターは小粒ではあるが、人員を配置した。今冬は県が外国語の出来るスタッフを配置してくれる。湯沢町観光文化検定の合格者の観光ガイドについては主催者と以前から協議している。湯沢駅の改良についてはJR東日本の副社長、常務クラス

一般質問

が数回私に説明に来ていて、私もJR本社に伺っている。新潟県、JRとよく協議、協力しながら進めたい。

質問

全国JR6社による新潟デスティネーションキャンペーンが近づき、つまさきうしり新潟」をテーマに各地で様々な計画が進められ、駅から出た後の二次交通を企画しているところが優位に立っている。夏場だけの観光周遊バス、ゆうゆう号」の運行をこの期間中も行い、全国に誇れる紅葉の湯沢の美しさと知られていない晩秋の湯沢をPRし、次への足がかりとすべきであると考え、町長の考えを伺う。

町長答弁

「ゆうゆう号」は利用客が非常に少なく、平成17年から大源太方面への路線は運行していない。観光圏事業で二次交通に配慮し

た着地型旅行商品を地元で企画した商品の販売を期待している。

産業観光課長答弁

「ゆうゆう号」の運行は、現在路線認定、道路の安全、料金、予算問題等を考えて、前向きに南越後観光と協議している。

がん治療施設問題に 翻弄された遊休町有 地活用の進捗状況は

質問

3月29日の広報でがん治療施設誘致の断念の経緯を知らせているが、提案者の虚言のみを信じ、明確な反省もなく、平成19年10月16日の町民懇談会で発表しているのにも係わらず、最初の出会いは平成19年11月としている。任期6ヶ月余りの中で、この土地の有効活用の進捗状況を伺いたい。

町長答弁

現時点ではこの計画を断念した。残り6ヶ月を念頭に鋭意努力しているが、この場では動きはないと言っておく。日程に関しては私自身が手帳に正確に記していないから、たことが間違いの元と思う。

新教育長の認識する、 湯沢の教育の重要課 題とその対応は。

質問

新潟県幹部が押ししの教育の専門家という触れ込みで、県の定年退職を待つて就任した教育長は、本人都合に合わせた湯沢の教育長不在の6ヶ月をどう穴埋めし、町民の期待する即戦力として湯沢の教育の課題をどう認識され、どのような対応を考えておられるのか、具体的に示して欲しい。また湯沢の子供達が湯沢で育つたことを誇りにもてる教育の実践として、湯沢町観光文化検定」を教育特区等を活用し、授業に取り入れられないか伺いたい。

教育長答弁

少子化と町内の小中学校の老朽化を踏まえ、県内外に誇れる将来を展望した特色ある教育の実現が緊急の課題である。現在副町長を委員長にした文教施設整備検討委員会の結果を踏まえて取り組みたい。教育は国、県、町教育委員会が所管の学校を指揮監督し、授業の中身、カリキュラムは学習指導要領に基づいており、難しいが、50年、100年を見通した教育を頭に入れながら検討していかなければならないと思っている。